

## 令和5年度第1回碧南市子ども・子育て会議 会議録

### 1 日時

令和5年11月13日（月）午後2時～午後2時45分まで

### 2 場所

碧南市役所2階 談話室1・2

### 3 出席者及び欠席者

(1) 出席者 鈴木政枝、水野裕子、板倉尚子、鈴木裕、杉浦伯典、永井民浩、水野紀子、加藤京恵、小林真人、鈴木忠義、稲生貴弘、吉田純平、松永聡、加藤里美、栗並えみ、鈴木理絵、渡部努（委員兼アドバイザー）

(2) 欠席者 小田直樹、杉浦龍一、竹中瑛智

(3) 事務局職員 福祉子ども部長 深津広明、子ども課長 鈴木美奈子、子ども課指導保育士 久野貴美代、子ども課幼保係係長 鈴木洋平、子ども課課長補佐兼育成支援係長 小林真代、子ども課育成支援係主事 三治梨香、福祉課課長補佐兼発達支援係長 鈴木信恵、健康課課長補佐兼母子保健係長 杉浦あゆみ

### 4 傍聴者 なし

### 5 議題

(1) 碧南市子ども・子育て支援計画の概要について

(2) ニーズ調査（アンケート）について

(3) その他

### 6 議事録

(1) あいさつ（鈴木会長）

(2) 議題

ア 碧南市子ども・子育て支援計画の概要について

事務局が資料に基づき説明

A委員：2点質問がある。1点目は、計画を策定するにあたり、今期新たに求められて

いることは、子どもの意見を反映させることだが、今回のニーズ調査アンケートでは、後半に親が子どもの意見を聞いて回答する形式になっている。全国的にこの形式なのか。親の顔色をうかがって本当のことを言えないという場合がある。設問内容も含め、全国的な動向を教えていただきたい。

2点目は、ニーズ調査の実施に関して、マイノリティの意向をどのように反映しているのかについて。特に外国籍家庭にアンケートが届いた場合、日本語を正しく読み取り、回答するのは難しいと感じる。平等にアンケートをするという観点でどのように考えているのか。

事務局：1つ目の質問にあったアンケートの形式は、全国で統一した内容にしなければならないという決まりはなく、碧南市独自の形式である。他市に調査したところ、碧南市同様、親に子どもの意見を聞いてもらうようなアンケートをする市もあれば、しない市もある。碧南市では、可能なかぎり子どもが答えやすい設問にした。

2つ目の質問にあったマイノリティについては、外国籍の方にとっては日本語のアンケートを正しく理解して回答することは難しいと思うが、現在多国籍になり、すべての言語に対応したアンケートを作成するのは難しいところがあり、日本語のみのアンケートとした。窓口に来る外国籍の方を見ると、携帯の翻訳アプリを使用して日本語の文章を読み取っていることが多い。翻訳アプリを使いやすくするため、ウェブ回答だけでなく、質問事項を紙で送り、紙の回答でも対応できるようにしていく。

A委員：紙回答をできるようにしても日本語という部分は変わらないため、回答は難しいのではないか。

事務局：内容が理解できないという問い合わせがあれば、市役所の通訳を通してサポートしていく。全ての言語を紙面にすることは難しいため、日本語だが、アンケートに協力していただける方にはご協力していただきたい。多国籍となり、アンケートの言語については各市苦慮している。この課題については今後各市と情報交換してよりよい方法を見つけていきたい。

B委員：マイノリティに対するアンケートだが、アンケートは大部分の意見が反映されやすく少数派の意見が反映されにくいという部分がある。ニーズ調査をしていく中で、アンケートだけでなくマイノリティに対して聞き取り調査も

同時に行うという手も1つの方法としてあるのではないか。

事務局：今後の参考にさせていただきたい。

## イ ニーズ調査（アンケート）について

事務局が資料に基づき説明

C委員：アンケートを実際にやってみて、設問量が多く負担が大きいと感じた。

また、自分が知らない用語等が選択肢の中にあり、これではニーズを正しく調べることができないのではと感じた。選択肢にある碧南市のサービスの概要をアンケートに記載した方が良いのではないか。

事務局：アンケートの中で補足説明をした部分もあるが、日頃事務をしている事務局が作成したため、市民にとってどの用語が分からないのかが把握しにくい。分かりにくい用語については解説を記載するので、教えていただきたい。

アンケートの設問量が多いという点について、設問数は前回調査より減らしているが、ウェブで回答すると5分～10分かかるということは承知している。聞き方などを検討していきたい。

B委員：ウェブ回答する中で、選択肢から選ぶ設問と、プルダウンから選ぶ設問が混在していたので、統一すると良い。また、複数回答ができる設問の場合、「複数回答可能です」という説明があると分かりやすくなる。次に、システムの問題かもしれないが、どの回答を選択するかによって次に答える設問が変わってくるものがあるが、自動で次の設問に切り替わるような設定にできないか。

事務局：ウェブ回答で使用しているあいち電子申請届出システムは、入力規則が厳しく、次に回答すべき設問に切り替わる機能がないため、対応することができない。プルダウンや選択肢の設問が混在している点については、統一できるよう検討していく。

B委員：間違えて回答してしまう人がいるのではないかと思うので、正確なアンケート結果を得るためにも回答間違いを防げるようにしたほうが良いと感じた。

次に、アンケートの内容について、個人的に回答しにくい設問があった。「放課後や長期休暇に主に過ごす場所はどこか」という設問の選択肢に「習い事」とあるが、他の選択肢に放課後児童クラブや児童館がある中で、「習い事」というのは方向性が違っていると感じる。自分の子どもで想像すると選択しにくいと

感じたため、選択肢について検討していただきたい。

A委員：「習い事」の選択肢について、自分は違う捉え方をした。放課後に過ごす場所として、都市部では児童クラブに空きがなく入れない等の理由で「習い事」を選択肢に入れなければならない家庭もある。また、碧南市では高学年になると児童クラブに通う子供が少なくなる傾向があり、児童クラブで過ごさせたいが、友達が少ないため習い事をさせるという家庭もあることも知っていた。うえで選択肢について検討していただきたい。

#### ウ その他（自由意見）

D委員：この会議は、子ども・子育て支援事業計画を策定するための会議なのか。子ども・子育て支援に関して、現在国が次々新しい施策を出している。特に、乳児に関しては、令和7年度から乳児が保育所等に入所するための条件が緩和されたり、また、希望する人は誰でも入所できる体制を国が目指している。それにより、今後子どもの数は減っていくが、入所を希望する人は増えていくことになる。碧南市は他市と比べると、人口の割に保育所が多いが、乳児に関しては、令和7年度には足りなくなることが予想される。計画策定中に情勢が変化し、現状が変わってしまうことが心配される。本会議内でも、最新の情報を踏まえて今後の課題について話し合えると良い。

事務局：子ども・子育て会議は事業計画を策定するための会議ではあるが、国は、「こども誰でも通園制度」の創設を目指しており、また、令和7年度から保育所入所のための就業要件が90時間から60時間に緩和される。次回以降の会議では、ニーズ調査の結果も踏まえ、今後必要となる保育量の見込みを話し合っていきたい。事業計画は5年ごとに策定するが、子ども・子育て支援に関する情勢は日々目まぐるしく変化していくので、情勢に合わせて計画の変更をする場合もある。その際には委員の皆様の意見を伺いたい。

B委員：現在子どもを取り巻く状況はどんどん変化している。こども家庭庁ができたことによって子ども・子育て支援に関することが重点的に行われている。今後、保育を必要とする子どもの数は頭打ちになり、数は減っていくことは厚生労働省が推計しているが、保育の必要性は高まっていくことが予想されるため、先を見据えながら市としてどう取り組んでいくかが大事になる。情

勢を反映しながら次の計画を策定できると良い。

事務局：ご意見があったとおり、子ども・子育て支援に関する動向は過渡期であると思う。情勢を計画に反映させるため、次回以降、情勢や制度等を紹介し、ニーズ調査の結果を踏まえて委員の皆様の意見を伺っていきたい。国や碧南市にとってより良い計画が策定できるように努めたい。いつでも構わないのでご意見をいただきたい。